

PRAEVIDENTIA DAILY (10月28日)

昨日までの世界：独 Ifo 悪化でドル安

昨日は、ドイツ Ifo 景況感指数が 103.2 と前月および市場予想よりも悪化、先週の PMI の予想外の改善を覆す内容だったことから、ユーロ圏を中心とする世界景気減速懸念を再び強め、米中長期債利回り低下、米株安とドルの全般的な軟調に繋がり、ドル/円は 108 円台から一時 107.58 円へじり安となった。米中古住宅販売仮契約指数も前月比+0.3%と市場予想を若干下回り、マイナー指標ながら追加的な小幅ドル安材料となった。

他方、ユーロ/ドル相場は、Ifo 景況感指数発表後の下落は限定的で、ストレステスト結果を受けたイタリア銀行株を中心とする欧州株価の下落にも拘らず、むしろ全般的なドル安の影響を受けて上昇した。本来ユーロ圏経済指標の悪化は ECB の量的緩和導入期待を強めユーロ安となるはずだがそうならなかった点、ドルの動きが支配的であるほか、ECB の量的緩和導入に対して市場が懐疑的であることを示しているかもしれない (ECB 金融政策とユーロについては 10 月 26 日付当社週次レポート「EUR：他力本願から脱せるか」も参照)。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.3	-0.01	-0.01	+0.00	-0.02	-0.01	+0.00	-0.2	+0.6	-0.0	-0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.2	+0.00	-0.01	-0.01	+0.00	-0.01	-0.01	-1.0	-0.2	-0.3	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.2	-0.03	-0.04	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.4	-0.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.05	+0.04	-0.01	+0.04	+0.03	-0.01	-0.2	-0.5	+0.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.6	-0.00	-0.01	-0.01	+0.01	+0.00	-0.01	-0.2	-0.5	+0.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.1	-0.01	-0.01	+0.00	-0.01	-0.01	-0.00	-0.2	-0.0	+0.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅 (%ポイント)。  
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：ミシガン大 VS カンファレンスボード

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
米 9 月耐久財受注・前月比	21 : 30	-18.2%	+0.6%	
同コア資本財受注		+0.6%	+0.6%	
米 8 月 S&P ケースシラー住宅価格・前年比	22 : 00	+6.7%	+5.8%	
米 10 月消費者信頼感	23 : 00	86	87	カンファレンスボード

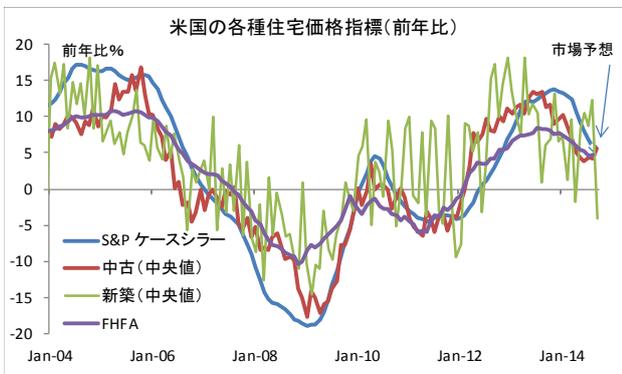
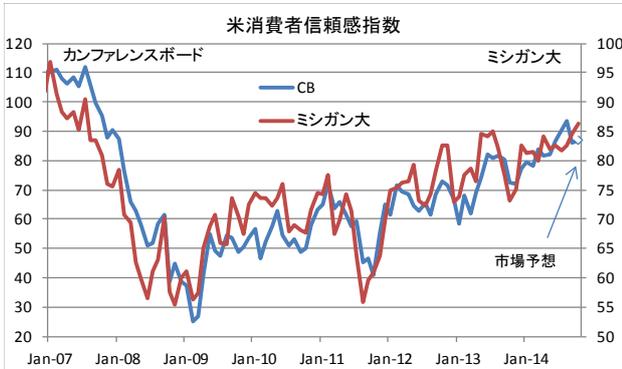
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日はアジア・欧州時間は材料が少ないため株価動向やエボラ出血熱関連報道を意識した展開となりそうで、どちらかというドル/円の上値抑制要因となりそうだ。NY 時間には米経済指標が幾つか発表されるが、最重要指標という訳ではないのでドルの動きは限定的となりそうだ。中では、耐久財受注は振れが大きい統計でトレンドをつかみにくく注目度が低い一方、S&P ケースシラー住宅価格と消費者信頼感に相対的に注目したい。

8 月分 S&P ケースシラー住宅価格は 8 月分と速報性に欠けるがトレンドを明確に示す傾向があるのが特徴で、住宅価格の前年比上昇率は低下基調が続いており、個人消費への悪影響の点でドル安要因だ (下図を参照)。

他方、カンファレンスボード消費者信頼感、既に 17 日にミシガン大消費者信頼感速報値が発表されているため速報性に欠け通常は目新しさはないが、10 月は 15 日にかけて株価が急落しており、ミシガン大分よりも

カンファレンスボードの方がこうした動きをより反映した回答結果となっている可能性が高い点で注目される。消費者信頼感には様々な要因の影響を受けるが、雇用者数の増加や失業率の低下、ガソリン価格の下落はプラスに寄与する一方で、株価や住宅価格の下落や大幅変動、そして賃金の低迷はマイナス要因だ。ミシガン大分はプラス面が強く出たかたちで改善したが、カンファレンスボード分については株安の影響がより強く出て予想を下回り、ドル安リスクとなり得る点に注意したい（下図を参照）。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641